

会議名	令和8年度 第1回 板橋区産業活性化推進会議
開催日時	令和8年6月19日(金)10時00分から12時00分まで
開催場所	板橋区役所 災害対策室
出席者	14人 〔委員〕 山田 敏之氏 中西 穂高氏 豊城 勇一氏 岩月 宏昌氏 齊藤 得彌氏 種田 淳一氏 梶山 祐美子氏 岡田 晴一郎氏 家田 彩子氏 〔区側出席者〕産業振興課長 産業戦略担当課長 赤塚支所長 〔産業振興公社〕事務局長
会議の公開（傍聴）	公開（傍聴できる）
傍聴者数	0人
議 題	(1)板橋区産業振興構想 2035 策定 (2)板橋区産業振興事業計画 2025 実績報告 (3)板橋区産業振興構想 2035 推進体制及び成果指標
配 布 資 料	1.板橋区産業活性化推進会議 委員名簿 2.板橋区産業振興構想 2035(概要版) 3.板橋区産業振興構想 2035 4.板橋区産業振興構想 2035(資料編) 5.板橋区産業振興事業計画 2025 実績 6.構想 2035 推進体制案 7.構想 2035 評価のための年次調査設計案
所 管 課	産業経済部 産業振興課 産業戦略推進係 (3579-2174)

以下、議事要点

●委嘱式

1委員が交代につき、委嘱状交付

●確認及び紹介

▷産業振興課長

配布資料の確認、関係課長の紹介。

●会議の公開について

▷会長

付属機関等の会議の公開に関する基準に基づき公開されることを説明。

●議題(1)板橋区産業振興構想2035策定報告及び(2)板橋区産業振興事業計画2025実績報告

▷産業振興課長

資料「板橋区産業振興構想2035」について主に前回会議からの変更点を説明。

—質疑応答—

(委員)

今までの話ではエリア戦略はなかったが、盛り込まれたことにより区の強い意志を感じ、とても分かりやすくなったと思う。

(委員)

エリア戦略は分かりやすく地図に落としこまれ、分かりやすく感じている。

(委員)

拠点マップは非常に分かりやすく、実行していく際、拠点間の相互作用を行っていくと、構想実現につながると思う。構想2035は大学などでも配られるか、どこで見られるか。

(事務局)

冊子での配布は最小限となっており、基本的にはHPから確認いただくことができる。掲載されていること自体の周知は今後検討していきたい。学生も構想実現の重要なプレイヤーと認識している。

(委員)

東京商会議所分科会でも構想2035について区から説明され、多くの事業者にも周知されて、意見も取り入れていただいていると感じる。構想2035は策定して完了ではなく、今後も柔軟な運用を検討していただいている。今後に期待したい。

(委員)

区民目線で見ると、構想を見るきっかけがない。これだけ良い施策を考えてもらっているのもっとわかりやすい言葉で、商店会の会合なども活用しながら区民を惹きつける周知を泥臭くPRできると良い。

(委員)

大学内でも構想を周知していく必要があると感じる。大学も区や信用金庫と様々な形で連携できると考える。再開発については全国的に資材高騰などにより、ストップするケースもあるようだが区内の再開発において、懸念はないか。

(事務局)

現状、区内の再開発で止まっている状況はないと認識している。

(事務局)

産業連合会、中小企業家同友会などの団体でも構想や主要な新規事業などについても話しする機会があった。職員も事業者の期待を感じる機会が増加しており、ますますブラッシュアップしていく所存である。

●議題(3)板橋区産業振興構想2035推進体制及び成果指標

▷産業戦略担当課長

資料「板橋区産業振興構想2035推進体制」「年次調査の設計案」に基づき説明。

今回の調査の目的は、区産業の現状把握と事業者とともに今後の区産業振興について議論を交わし未来の産業施策を構築していくことである。今後、毎年調査をとり、現状・変化を捉え毎年のアップデートを図るための議論をしていくことを予定している。

—質疑応答—

(委員)

推進体制について、事務局産業振興課が大元となり課題提起し推進していく考え方でよいのか。

(事務局)

ご認識のとおりで産業振興課が大元として推進していき、意見等を伺っていく体制のご説明でした。事業計画についてスピード感をもって柔軟に見直し、現状や社会情勢を把握し反映していく体制を構築していくことが目的。調査を実施し、そこから施策に反映していくことを、事業者に実感してもらいたいと思っている。事業者に区の考えるメッセージを伝えていくための効果的な方法などを皆さんにご意見いただければありがたい。

(委員)

施策・取組の下にある事業はこれまでと同じものか。

(事務局)

これまで行ってきた事業も構想策定に合わせた新規事業もある。

(委員)

取組に対しての事業体系が見られると分かりやすい。効果測定としての指標をいれることは素晴らしい。事業活性化に貢献したという数値としてのエビデンスは行政として必須。事業レベルでは納税者が納得するような指標が必要で、アウトプット指数のみではなく、今後の発展の一番の重要なポイントと思う。事業評価を含めた評価の枠組みを示してほしい。

事業設定理由も示したうえで、アンケートをとることで、事業の柔軟な対応と捉える。事業成果も短期で成果見えるものもあれば長期視点が必要なものもある。

アンケート実施のうえで情報をしっかり開示すると効果的な結果が得られるのではないか。

(事務局)

事業については、実績となるアウトプット指数に加え、どのような効果をもたらしたかを事業ごとに見ていくことは必要と考えている。事業者の実感を把握することを事業ベースまで詳細にとはいかないが調査で測っていくうえで、事業評価にも運用できると考える。事業・取組いずれもしっかりと捉えていく。

(委員)

WG で実態把握する意図があると思うが、単に状況把握ではなく、いかに構想を伝えていく

かが重要。メンバーの中に当事者になる方を含め、自己評価しつつ、構想自体が自分たちのものになっていく、と感じる設計でメンバー選定するとよいのではないか。

また、成果指標について、事業者・区民・支援機関がそれぞれ主語となるケースがあると見受けられる。事業者向けアンケートのなかでは、企業規模により、内容が変わるのではない。区民向けについてはPTAに聞いていくのか、生徒会など保護者ではなく本当の子どもたちに聞くことも有効なのではないか。再開発エリアの住民を対象にすることも可能性としてはできるのではないか。せっかくのKPIなので多面的な取り方ができるとよい。

(委員)

新規事業、スクラップビルドについて区の予算との連動はどう考えているか。

(事務局)

おっしゃるとおり、区の予算編成スケジュールはかなり早いものとなっている。現状の建付けの話とはなるが、11月実施の調査結果を踏まえ議論し、翌年度の予算協議に乗せ、実行はさらに翌年度となる。

(委員)

年次調査はあまり質問数が多すぎると有効な回答が得られない可能性がある。様々な方に様々な調査をしていかなければならないのかと気になった。よくあるのが中間の回答を選択しがち、設問数が多いと途中でやめてしまうことがある。

(委員)

アンケートは紙で行うのか

(事務局)

二次元コード読み込みでweb回答を想定している。最大でも30項目以内に抑えることを想定。プレ調査でシミュレーションし調整していく。アンケート以外で、取組によっては中学生にアンケート実施するなど組み合わせていきたい。

(委員)

プレ調査はどんなかたちで行うのか。

(事務局)

産業振興課や産業振興公社の事業(セミナー等)の場を活用し回答をいただく考え。

分かりにくい答えにくい点などを把握し調整していきたい考え。

(委員)

回答しようという動機付けは、`有料のものが無料になる、だったり、`いたPayのポイント付与、などのインセンティブをつけると良いのでは。

(委員)

KPIは何と何の因果関係を見たいのか、その見せ方によって回答の動機付けが変わるのではないか

(事務局)

構想2035概要版P5に記載のとおり体系のなかで、施策に対してKPIを設定している。

たとえば、アンケート結果を捉え、事業に反映していくことができると考えている。

(委員)

評価にあたっては成果がでる時間軸をしっかりと捉えることが必要。アンケートは、業界に特化したものだ、自分事と感じやすく動機付けにつながるが、全産業的なものだと自分ごとになりにくい点はある。また、回答案については、数字の大きい選択肢にプラスとなる回答を結び

付けられる設計としたほうが回答者はイメージしやすいと思う。

(委員)

言葉のチョイスについて、業界では当たり前でも一般的には分かりにくいことはよくあること。「イノベーション」「DX」などの言葉も同様と考える。対象に理解しやすい言葉で記載するとよい。

(委員)

全体予算、15の取組ごとの予算などは出さないのか。時間軸と予算の割り当て比率も示してもらえると構造的に区民にわかりやすいと思う。

(委員)

国だと計画にのったものは予算が確保しやすいが、区ではこういった対応か。構想に掲載あるから予算が通りやすいなどあるか。

(事務局)

これまでそのような記載をしてこなかったが、今後表記していくことも次回に向け検討していく。

構想と予算は関連するものの、区全体での産業の位置付けなどの情報を提供することが必要と感じている。

ここ3年では区全体の予算のうち、産業振興費の割合としては、いたPayやコロナ禍での融資等により増となっていた。コロナ後としては数値としては減となったが、構想 2035 に紐づく新規事業を開始した分、上がっている面もある。予算の概念の共有は構想 2035 の理解を深める必要な情報提供と感じている。どのように開示できるか検討していく。

(委員)

事業者・区民にとっては、自身の声が反映されたことのフィードバックが分かりやすいと良い。

●意見交換

・構想は分かりやすくて良かったと思う。プレイヤーの一主体として参画し共に取り組んでいきたい。
・板橋区産業事業計画2025までの事業評価とは異なった、しっかりとした評価が行われることに期待している。構想の評価があがっていくことで、より予算も増やせると思う。アンケート回答率を上げていくことは難しいと思うが、工夫しがらばしてほしい。

・構想の見直し、アンケートの設計など様々な点で判断基準が重要となる。誰に、何を、どんな価値を提供していくのか。大きな課題となると感じる。会議の意味合いがこれまで以上に増していく。先のことを見据えながら状況変化を捉え反映させていくことが重要。公社の強みも構想実現に反映できるとより明確になると思う。

・産業連合会でも産業振興構想について様々な意見交換してきた。構想 2035 は概ね素晴らしいと感じているが、戦略1に示されている高島平・新河岸エリアについて、住みやすく働きやすいということは難しい。快適な住環境と工業は相反する。物流拠点集積による大型車両の通行量増は注視していくべき。工業専用地域については、工業が維持できるよう残してほしい思い。

・本会議体の委員となったことで区への理解が深まった。通勤族で区への愛着が深いとはいえないが、良いところとすることが増えている。様々な機会で区民を巻き込んでいけると良い。基本的には一般区民が区の理解を深めていくことは難しいことを認識していくとよい。アンケートについて「施策への理解度」の項目を入れていることは大変良い。

・区民として本会議体に参加して、これだけ検討を重ねて考えられていることは素晴らしい。今

後WGができて、構造的に意見ができる場の体制を構築していくことも良いと考える。中小企業診断士協会としては支援機関WGに入っていきたい。診断士協会の中でも構想の理解を深めたいと思っている。

- ・信用金庫内部でも10年後のありたい姿を描くこととしている。当信用金庫は支店の4分の1が区内にある。先日、事業者向けアンケートを実施したところ、「売り上げ、人手」を課題とする数が圧倒的だった。政策金利見直しもあり、事業者も苦しい状況と感じる。産業融資の需要がかなりあるので、区と連携のうえ区内事業者の発展に貢献したい。不動産価格高騰による設備投資も負担感がある。

- ・この会議が、これまでと違った会議になってきて、よりポジティブな流れを感じて大変嬉しく思う。役所からの説明からだネガティブポイントもあるかと思うので、WGメンバーを上手に活用したり、教育の探求学習と結びつけるなどできると良いのではないかと考える。

- ・事務局含め産業振興課が積極的に外に出ていろんな方と交流した結果で流れが変わってきていると思う。調査についてはプレ調査をしっかりと行うことが本調査をより有効なものとするポイントとなると思う。

- ・（事務局）区は新河岸工業会との交流を行いつつ、工業専用地域についても意見交換し維持について検討している。板橋中小企業診断士協会様にも様々ご協力いただいている。

会議の内容は、以上のとおりである。